

いろいろあるね、
消防署の仕事

消防署の一日は、午前八時三十分、整列した隊員の大きなかけ声とともに始まります。そして、消防車や救急車の点検をし、放水ホースなどいろいろな器材の確認をしたりします。



平塚市には、二百五十人の消防署員がいます。消防署員は三つの班に分かれて、二十四時間体制で働いています。制服の色は仕事によって分かれています。青色の制服を着ている人は消防隊員で、火事のときに火を消します。灰色の制服の人は救急隊員で、病



豆記者
市川 一帆
曾我 友里佳
ぼう たい いん
一回消防隊員

わたしたちは、一日消防隊員として、朝の点検から救助道具の操作や放水、はしご車への乗車などいろいろな訓練を体験しました。



緊急指令
119番、こちら消防署です



水の勢いってすごいな

を付けました。煙が多い火災現場で使うものですが、ポンペは重いし、マスクは暑苦しいし、息もこぼれ、これを付けて活動する隊員の人はとても大変ななと思いました。次に防火衣という燃えにくい銀色

の服に着替え、ヘルメットをかぶりしました。電車の車両二両分もの重さを持ち上げられる「エアージャッキ」を見せてもらったり、救助のための道具「コンピツール」を使って鉄パイプを切ったりしました。火災の現場では、引火すると危ないので空気力などで動く道具が使われるそうです。いよいよ放水訓練です。きれいに丸められたホースを勢いよくほうり投げて伸ばします。消防隊員はとも上手でしたが、わたしたちにはホースが

人やけが人を救急車で病院まで運びます。オレンジ色の制服の人は救助隊員で、火災だけでなく、交通事故、海



エアージャッキはすごい力

消防署を見学しました
消防署の建物には、事務所をはじめ食堂や仮眠室、そして通信指令室などがあります。通信指令室は、一一九番の電話がかかってくるところです。通報があった場所が大きな地図に表示され、ひと目でわかります。見学している



うまく息ができなくてちょっと苦しいな
重くて、思うように伸ばすことができませんでした。ホースの先の金員を回すと水がまっ

平塚で一番高いはしご車に乗りました
はしご車が動き出し、わたしたちを乗せる準備が進みます。もう心臓はドキドキです。乗るとすくに、はしごが空まで届きそうなるくらいまで高く伸びていき、四十六メートルの高さ(ビル



いよいよ上まで、ドキドキ



空に向かってどんどん伸びてく

さあ、いよいよ訓練です
まずは空気ポンペを背負い、マスクを付けて、下を歩いている人はすごく小さくて、車もおもちゃのように見えたんです。消防署での体験は、こわかったり、驚いたりの連続で、とても貴重な経験になりました。消防署のみなさん、これからもみんなの暮らしを守るためにがんばってくださいね。